

元の生活をかえせ・原発被害いわき市民訴訟原告団

3/15(水) 第22回裁判

14:00 (開廷時刻) **ところ** 福島地方裁判所いわき支部

15:30からの「南相馬第6回裁判」の傍聴にも参加しよう

「謝れ、償え、なくせ原発・放射能汚染」を合言葉にして、立ち上がった私たちの裁判での訴えの趣旨は次のようなものでした。

- 1.日本の歴史上最大、最悪の公害となって福島県民を苦しめている原発事故は、国と東電に「万が一にも起こしてはならない高度注意義務が課せられている」にもかかわらず、国と東電は大きな地震、津波は起こらないとして対策を怠ってきた結果起こったものである。
- 2.事故はいわき市民に強度の恐怖と長きにわたる放射線による健康への不安をもたらし、いわきの大地、海、山、川の素晴らしい自然の恵みを楽しむ権利や生きがいを奪い、また、市民に対立やいがみ合いなどをもたらしてコミュニティーを壊している。

これに対して国と東電は次のように主張しています。

- ①あんなに大きな地震、津波は誰も想定していなかった。また、3.11前までは国には電力会社を規制する権限はなかったので、法律的な責任は無い。
- ②いわき市民にはすでに賠償金を支払っており、それ以上の損害は与えていない。放射線量もすっかり下がっていて何ら問題はなくなっている。しかもいわき市民は3.11前よりも豊かな生活環境の中で暮しができるようになっている。

裁判所では以上のような点を中心に激しく争われています。

政府と東電は、原発が動かないと日本の経済を良くすることはできないとして、福島第二原発を存続させ、各地の原発の稼働に全力を挙げています。これでは、「**原発大事故、次も日本**」となるでしょう。私達の裁判で国と東電の責任を認める判決を勝ち取ることは、福島県民にとっても国民にとっても大きな影響を持つことになります。

裁判日の行動に参加して多くの市民に闘うことの大切さを広めてください。

原告団長 伊東達也

★事前に連絡をください。
傍聴席の調整をします。

参加者は12:30までに飯野八幡宮会館にお集まりください

原告団事務局長・菅原隆 090-1067-0175 —— 駐車場は飯野八幡宮境内と広田次男法律事務所をご利用ください ——

原発事故の完全賠償をさせる会／元の生活をかえせ・原発事故被害いわき訴訟原告団

〒973-8402／いわき市内郷御厩町三丁目101いわき教育会館内／TEL 0246-27-3322 FAX 0246-68-6771